

「*Choju*」だより

株式会社エース・E&L
プロジェクトマネージャー 田仲 清久

【強烈な耳ダレの方の聴こえの悩み解決】

「*Choju*」は、2016年11月販売開始以来、様々なお客様のご意見や困っている問題を解決すべく対応して参りました。今回は、耳垂れがひどくて聴こえが悪い80歳代の親父さんのお話です。

2019年10月2日の日経新聞に掲載された「*Choju*」の記事を持っておられた方から、電話で聴こえの問題のご相談がありました。以前から聴こえが悪かったのですがいよいよ奥様の声が聴こえなくなり、病院などに行って名前を呼ばれても気がつかない状況でした。このためいつも奥様が病院に同行すると言った状況でした。ご夫婦とも足が悪く杖をついての歩行でしたので、奥様を同行させるのも悪いと思い試聴の問合せとなりました。

携帯電話で話が出来ていたので音量設定を「中」で試聴を開始すると「聴こえない」との事でした。音量を大にすると「何とか聴こえる程度」と言われたので、「電話が出来るのに何で?」と思い、イヤホンの装着状況が悪いのかと思って耳穴を見ると、軟性の耳垢(耳垂れ)で耳穴が塞がっておりイヤホンが入っていない状況でした。どうやら耳垢でフタをされた状態だったため聴こえが悪かったのです。携帯電話では耳垢を通り音の振動で鼓膜を振動させていたので何とか聞こえていたのか?と思い、耳穴の外側と耳穴の入り口の耳垢を綿棒で取りのぞいて、話しかけてみると、「やはりよく聴こえない」との事でした。入口だけでなく奥まで軟性の耳垢が詰まっている状態でした。

素人が耳の中まで掃除するのは耳孔を傷つける可能性もあるためやめて、取敢えずイヤホンが入る程度にして試聴を再開しました。音量:大で「聴こえる」と言われたので、*Choju* を預けて耳鼻科で耳垢掃除が終わったらイヤホンをきちんと装着して試聴をして欲しい旨を伝えてその日は帰りました。

(*Choju*140dB品+骨伝導ヘッドフォン)

2日後、男性から「耳鼻科行ったら、先生より「耳孔(外耳)が炎症しているため耳穴に装着する聴覚補助器は使わないように」と言われたため、男性から「炎症が治ってから再度試聴したい」との電話を貰いました。「それでは*Choju*を含む聴覚補助器は使えないのではないですか?」と言うと電話口で「そうですよね」とガッカリした様子が伺えました。普通ならここでおしまいですが、なんとも可哀そうで何か手は無いかと検討した結果、重度難聴者でも使用実績のある、通常品音圧(120dB)より音圧の高い*Choju*140dB品と、「骨伝導ヘッドフォン」を組合せられるのではないかと思い、設計者と相談し、(*Choju*140dB品+骨伝導ヘッドフォン)と言う、この男性用カスタム品を作製しました。

この特別仕様品を再度訪問して試聴して貰うと「聴こえた!これでこのような耳垢の私でも聴こえるようになった!妻の声も聴こえる」と喜んで頂きました。奥様からも「これなら良いですね」と太鼓判を頂きご購入となりました。因みに他社の骨伝導型集音器は音質調整が無く必要以上に音量を上げる必要があり、「聴こえが悪い」「音はするけど言葉が解らない」と言われています。*Choju*でこのような障害の方でも聴こえを戻すことが出来て非常に良かったとおもっております。

エース・E&Lは、いつも特殊な問題を抱えた難聴者の方の問題解決に取り組んでいます。問題を抱えている方は、ぜひご相談をしてください。